たぞえとめぐろ

活動報告レポート

2023.1

Vol.15

区議8年拡大号

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

寄り添う支援

不安に思うことが起きても、
「大丈夫ですよ。」と寄り添う行政を実現したい。
子育ても介護も、大丈夫！と言える社会へ。

目黒区議会議員
たぞえ麻友
子育ての たぞえ！ 3児の母 40歳

32歳で目黒区議会議員に押し上げていただき、8年が経ちます。感謝の気持ちを込めて、これまで皆さんと創ってきた政策と取り組んできたこと、これから目指したいことをお伝えします。

新時代に向けて

時代の変化と共に、
テクノロジーや生活環境も様変わりしている。
政治も新時代と共に変化を。

つながる未来

新型コロナ以降、集まることが困難に。
新しい形でつながること、
新しい交流を生み出していく。
新しいつながりでにぎやかな目黒へ。

目黒区議会議員
たぞえ麻友

プロフィール ▶1982年東京都目黒区生まれ ▶目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園小・中・高等学校卒業 ▶受験にあたり、予備校の早稲田塾（自由が丘校）にも通学 ▶早稲田大学政治経済学部卒業。在学中、南アフリカで開催されたSDGS（持続可能な開発目標）に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）に参加 ▶専門商社に2年勤続後、ベンチャー系経営コンサルティング会社に8年勤務 ▶2015年目黒区議会議員選挙当選（無所属） ▶現在2期目（都民ファーストの会） ▶3人の子どものママ

日々の活動、発信しています
HP www.mayutazoe.com
たぞえ麻友と目黒区の未来を創る会
たぞえ麻友 mayutazoe

たぞえ麻友へのご連絡はこちらから
TEL 050-5473-2018
FAX 03-5722-9343
MAIL mayutazoe@gmail.com

イラスト：松田弘美

議員の仕事

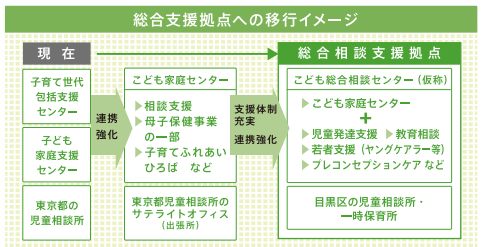
児童虐待ゼロを目指して

議員の仕事はわかりづらい、見えにくいと言われます。「地域を守る仕事」や「社会を良くする仕事」だと思っていますが、もっと具体的にお伝えするために、8年間取り組んできた「子育てを心から楽しめる社会の実現」「児童虐待ゼロ」についてご説明します。

目黒区の児童虐待防止に向けての動き。

子どもと保護者を丸ごと支援するために、さまざまな提言を続けてきました。実現した政策には「待機児童ゼロ」「ベビーシッター助成」などがあります。そして特筆すべきは、「児童相談所の設置」と「子ども総合相談センターの設置」について区の方向性が示されたことです。出産前からの子育て支援は区の複数の部署が担当するため、縦割り行政の弊害として一貫した支援ができていませんでした。

議員になってからずっとこの縦割り行政の解消について訴えてきた結果、児童相談所を含む、子育てについて丸ごと相談できる体制（総合相談支援拠点）づくりが始まりました。2018年3月目黒女児虐待死事件が起き、ご意見をたくさん頂戴しました。みなさんの声がつながってきたことを実感しています。



1 調査・研究

虐待事案について児童養護施設への視察や当事者から話を伺い、実態を調査しました。虐待が発生する要因としては、保護者が精神的に追い詰められていたり、経済的に困っていたり、また保護者が過去に虐待を受けたトラウマがあったり、複数の要因が重なっていたりすることがわかりました。

2 課題の解決策＝政策を考える

児童虐待が発生した時に対応するのが東京都の「児童相談所」や目黒区の「子ども家庭支援センター」です。この施設間の連携を図ること、また区が児童虐待を早期に発見すること、虐待予防として子育ての不安に寄り添う支援として「ゆりかご目黒」（妊娠時の面談）や産後ケア事業の拡充が必要だと認識しました。

3 提言をする

子育て支援について、また児童相談所の設置について質問を重ねてきました。東京都知事、目黒区長に要望書を提出したり、議会や委員会でも発言をしてきました。

4 問題を広く知ってもらう

児童虐待防止について共に取り組んでいる地方議員と書籍を出版しました。マニフェスト大賞という政策コンテストで賞をいただきました。地方議員を通じて日本中の児童虐待をなくすために、子育て支援の必要性を広めています。

たぞえ麻友の区議会議員8年の間に取り組んだ目黒区のこと、これから目指したい目黒区のこと

♥子どもたちがのびのび過ごせる場所創り

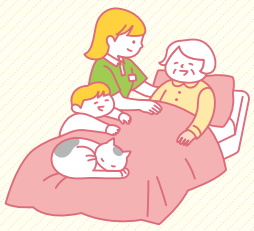
子どもたちが安心して遊べる場所について、様々な取り組みをしてきました。放課後については、ランランひろばを実施する学校が増えました。しかしまだ、学童の代わりになっていない状態のため、改善を要望しています。また、制約なく遊べる場所として**プレーパークを目黒区につくりたいと思っています。**目黒区は子ども条例を先駆的に制定した区です。子どもたちの意見を聞く仕組み作りにも取り組んでいきます。

♥子育て支援の更なる拡充

保育園に入れることが困難だった時には、保育園内定までの仕組みをお伝えするセミナーを実施してきました。現在は保育園が増設され**待機児童は解消し、保育園に空き定員ができるほどになりました**。保育園の増設とともに、保育の質の向上を訴え、目黒区の保育の基本理念はまとめられましたが、更なる具体的な対策が必要です。また、**児童虐待防止**の取り組みについては、目黒区に児童相談所を設置することや、**出産前から子育ての不安に寄り添う**施策の強化などを訴えてきました。

♥最期まで目黒で過ごせる介護と看護

任期中に母を自宅で看取りました。地域の方を福祉の支援につなげたりと、福祉行政を間近で見てきました。もっと早く区の窓口「**包括支援センター**」とつながっていたら円滑に進められたのにと悔しい経験をしました。一人一人が看護や介護の助けを借りながら、望む生活・最期を迎えられるよう、現状の課題を払拭していきたいと思っています。また、**看護・介護の担い手の方々の支援の強化が必要です**。



♥出産前から不安のない育児のスタート

「一人の子どもを育てるには一つの村がいる」という言葉があります。子どもを育てる中で、**孤立したり、不安を感じ**て産後うつになる方もいます。生活面、経済面、様々な変化が一度に起こる**出産前、出産後をサポートする事業の拡充**を訴えてきました。（ゆりかご目黒、産後ケア、家事支援ヘルパーの改善、ネウボラ、母子手帳の改善、検診の土日の実施など要望）目黒区の出産前・出産後のサポートは拡充しましたが、まだ実現できていないことは多々あり、引き続き訴えていきます。

★スポーツと文化・芸術で彩られる目黒

コロナ禍の開催となったオリンピック・パラリンピックは、**スポーツや多文化**への理解を促進しました。スポーツがより身近なものとなるために、目黒区が**練習の場などを整える**ことが求められています。また、文化・芸術を育み、気軽に楽しむことができる交流の場を増やし、**文化・芸術が身近にあり生活や街を彩る**、そんな目黒区を目指します。

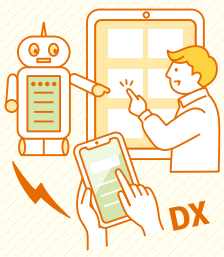
★真のICT教育・性教育の充実

国が進めるGIGAスクール構想で1人一台タブレットが配布されましたが、あくまでもタブレットは道具です。**子どもたちが深い学びをするために必要なのは、体験や対話**です。タブレットの活用だけでなく、ICTによる先生方の働き方改革を進め、子どもたちの深い学びを促進します。また、性教育を含む**命の大切さを伝えることの必要性**を訴えてきました。子どもの発達段階に合わせて学ぶ機会を創出していきます。

★時代に合わせた防災・減災

避難訓練、防災備蓄、避難所など、これまで防災・減災対策については議会で取り組まれてきました。新型コロナの影響から、**避難所の衛生面の課題が浮き彫り**となりました。**在宅避難**（発災時にご自宅の倒壊や浸水などの危険性がない場合、そのままご自宅で生活を送る方法）を区として適切に推奨することを提案しています。**災害＝避難所ではなく、一人一人の生活環境、住宅事情に合わせた災害対応**を考えることを進めていきます。避難訓練も参加者が固定化しています。バーチャル避難訓練や**楽しみながら学べる避難訓練**など、新しい形を引き続き提案していきます。

★行政事務の効率化



行政が行う事務やサービスはたくさんありますが、**人の機微に触れる仕事は人と人が対面で行うことが大事**だと思っています。反対に、単純作業については、機械に任せた方がミスがありません。**単純作業はデジタル化やDX（デジタルトランスフォーメーション）で効率化**し、行政は人しかできない相談や訪問などに注力するメリハリが必要です。

●にぎわいのある街づくり

この4年間で、**国有地の活用**が進みました。ある国有地は、「子育て広場」に変わる予定です。駒場東大前駅近くの公務員住宅跡地（約1ha）は長らく使われていませんでした。ここには今後、特養老人ホームやスーパーマーケット、住区センター、広場などが設置される予定です。

また、大きなプロジェクトとして、**目黒区民センターの大改修が予定**されています。若い世代からの知名度が低い施設です。新しい取り組みの発信地として、また地域や年代を超えて区民がつながる場所として生まれ変わるよう働きかけています。

●誰もが行きたくなる、過ごしやすい公園

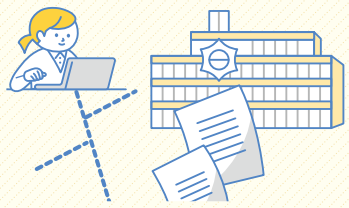
これまで公園については、美観を損ねない看板づくり、地域ボランティアの活性化、Park-PFI による民間事業者の運営、インクルーシブ公園など、**魅力ある公園づくり**について質問を重ねてきました。また、**自由な発想で遊べる場、プレーパーク**など多様な公園のあり方を提案していきます。

●環境に優しい街づくり

行政が率先して再生可能エネルギーに切り替えるべきだという質問をしました。目黒区の再エネ使用率は現在19.9%ですが、質問を契機に今後、目黒区総合庁舎も再エネに切り替わる予定で、再エネ使用率は30%近くになる見込みです。また、**公用車が一台、水素自動車**に切り替わりました。今後は、これまでも質問を行ってきた**ゴミ減量**や**プラスチックゴミ問題**についても提言を続けていきます。

●区民と行政のコミュニケーションをもっと気軽に

区民は納税、区は行政サービスの手続き、これが今の区民と行政の関係ではないでしょうか。**地方自治体は区民と行政が一緒に創る**ものです。区はアンケートを活用して意見を汲んだり、オープンデータを提供してアイデアを誘発したり、気軽に意見を出し合える場を作るなどの**コミュニケーションを推進**します。



●わかりやすい区のお知らせ・情報発信

目黒区報の紙面がリニューアルされ、全てのお宅に届けられるようになりました。また、ワクチン接種の予約をLINEで始めたことから、**目黒区公式LINE**が始まりました。また、重ねて要望してきた**区のホームページのリニューアル**が予定されています。

行政サービスに関する情報が必要な人に伝わることを願っています。今後は、区のお知らせや申請書などがわかりやすく、**見やすいデザイン**になるよう引き続き働きかけていきます。

その他にも、行政だけでは解決できない課題を解決するための「公民連携推進」や、生涯の心身の健康を促進するために「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」（自分の身体に関することを自分自身で選択し、決められる権利）を推進するべく取り組んでいます。医療的ケアが必要なお子さんの保育、合理的配慮のある教育、不登校の子どもと保護者への支援、ボランティア活動の活性化、などなど書ききれませんが、全て熱意を持って進めています。